

# 住民のやらされ感を払しょくするコツと手法は何か

## 提言

住民のスイッチをON!にするための地域に対する働きかけとしては、気づきを促す取組やつながりをつくる取組が挙げられる。地域に対しては、“つかず離れずの良い塩梅”で関わっていくことが大切である。地域ごとの良い塩梅をつかめるよう、地域の人顔が見えるほど入り込む、対峙するのではなく同じ方向を向く、try & error を前提とする、走りながら考えるといった姿勢が必要と考えられる。

## 登壇者

- |       |         |                                   |
|-------|---------|-----------------------------------|
| 【進行役】 | 齋木 由利氏  | 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 経済政策部副主任研究員 |
|       | 古屋 皓司氏  | 甲斐市長寿推進課/甲斐市地域包括支援センター            |
|       | 斉藤 節子氏  | 南アルプス市第1層SC                       |
|       | 福沢 千恵子氏 | 高森支え合いネットワーク(協議体)メンバー             |
|       | 今西 綾氏   | 広陵町介護福祉課                          |
|       | 中家 裕美氏  | 岬町第1層SC                           |
|       | 竹本 靖典氏  | 岬町第1層協議体副委員長                      |

## 議事要旨 齋木 由利氏

本分科会では、住民が主体的・自発的に取り組むための“スイッチをON!”にするために、どのように地域に働きかけるのが良いか、という観点から、各パネリストより実践報告をいただいた。各パネリストの取組は、「気づきを促す働きかけ」と「住民同士のつながりをつくる働きかけ」の大きく2つに分けることができた。

「気づきを促す働きかけ」としては、南アルプス市では、協議体を自治会単位という小地域で設定し、個別支援を行っているCSWが情報提供することで、身近な現実のニーズが見えて住民が自分事として考えるようになり、支えあいにつながった。また、広陵町では、地域毎の介護予防活動を仕掛ける前段階として、介護予防から助け合いの創出を見据えて住民への普及啓発に時間をかけ、その一つとして、いきいきと活動している住民の様子を動画にして発信することで活動を喚起していた。

「住民同士のつながりをつくる働きかけ」としては、高森町ではサロンを地域の中で丁寧に広げていく中で、住民が互いのことを気にかける関係づくりや、自分が必要とされていると感じることから助け合いにつながっていた。

このように地域に働きかける中で重要なのは、住民との絶妙な距離感である。各パネリストの取組では、地域のことを考えてもらう機会をつくったことは共通していたものの、どのような活動をするかは住民に委ねており、こういう活動をしてほしいと依頼するような働きかけは、いずれの地域でもしていなかった。また、「活動が必要」と伝えるよりも「あなたが必要」と伝える、活動の「必要性」を発信するよりも活動の「効果」を発信する方が、“スイッチON!”につながりやすいとの意見があった。

岬町の第1層協議体で活躍する住民からは、行政職員やSCには、住民と対峙するのではなく同じ方向を見て共に取り組みたいとの意見があげられた。また、甲斐市担当者からは、元SCの立場から、地域と行政の間に立つSCを孤立させないように行政から支援していくことの重要性も指摘された。

本分科会の議論からは、“つかず離れずの良い塩梅”で地域と関わるということがキーワードとして挙げられた。どの程度が良い塩梅かは当然地域によって異なる。そのため、地域の空気感を知る必要があり、だからこそ各パネリストの地域では、SCや行政職員が地域に足しげく通い、地域の人顔が見えるまで地域に入り込んでいる。また、確実な成功パターンがないからこそ、try & error を前提とし、走りながら考えることを実践していた。

本分科会としては、“スイッチをON!”にするための働きかけとして、気づきを促す取組やつながりをつくる取組の実践例を共有するとともに、地域に対して絶妙な距離感で関わることの重要性、それをつかむための地域への向き合い方について示唆を得ることができた。

「気づきを促す」+「つながりづくり」でスイッチON!

DOS~べき	&	DON'TS~べからず
○地域のことを考えてもらう機会をつくる	——	× 地域に必要な活動を依頼する
○行政とこれまで関わりのなかった人材に目を向ける	——	× 「いつもの団体」に声をかけて終わり
○「あなたが必要」と伝える	——	× 「活動が必要」と伝える
○活動の「効果」を発信する	——	× 活動の「必要性」を発信する

キーワードは、“つかず離れずの良い塩梅”  
対峙するのではなく同じ方向を向く/地域の人顔が見えるまで地域に入り込む/try & errorを前提とする/走りながら考える

\*進行役が本議事要旨のため作成した図表です

## アンケートの結果 参加者概数:185名 回答者数:185名

